

地域医療支援病院業務報告書

令和7年9月19日

愛知県知事殿

開設者 住 所 東京都文京区湯島1丁目5-28

〔法人の場合は、主たる
事務所の所在地〕

氏 名 公益社団法人日本海員掖済会

〔法人の場合は、名称及
び代表者の職・氏名〕

下記のとおり、令和6年度の業務に関して報告します。

記

1 病院の名称等

| 名 称 | 名古屋掖済会病院 | | | | | |
|---------|---|-------|-----|-----|-----|-----|
| 所 在 地 | 愛知県名古屋市中川区松年町4丁目66番地 | | | | | |
| 診 療 科 名 | 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、腫瘍内科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、緩和ケア内科、歯科、歯科口腔外科 | | | | | |
| 病 床 数 | 精 神 | 感 染 症 | 結 核 | 療 養 | 一 般 | 合 計 |
| | | | | | 602 | 602 |

2 施設の構造設備

| 施 設 名 | 設 備 概 要 |
|-----------|---|
| 集 中 治 療 室 | (主な設備) 人工呼吸器、経皮的心肺補助装置、心拍出量測定装置、湿潤器、大動脈バルーンパンピング装置、輸液シリンジポンプ、ベッドサイドモニタ、中心静脈留置型経皮体温調整装置(2011)、超音波診断装置、低圧持続吸引機、体外式ペースメーカー、除細動器など 病床数 8 床 |
| 化 学 檢 查 室 | (主な設備) 生化学自動分析装置、免疫測定装置、ドライケム性化学分析装置、血液ガス分析装置、血球測定装置 |
| 細 菌 檢 查 室 | (主な設備) 自動同定感受性検査装置、血液培養検査装置、安全キャビネット、孵卵器、蛍光顕微鏡、拡散抽出增幅検査装置 |
| 病 理 檢 查 室 | (主な設備) 自動包埋器、自動封入器、免疫染色装置、ミクロトーム、顕微鏡、換気装置 |

| | |
|------------------------------|--|
| 病 理 解 剖 室 | (主な設備) 遺体冷蔵庫、写真撮影装置、解剖台 |
| 研 究 室 | (主な設備) ディスカッショソ顕微鏡 |
| 講 義 室 | 室数 7 収容定員 450 人 |
| 図 書 室 | 室数 2 藏書数 3,099 冊程度 |
| 救 急 用 又 は 患 者 搬 送 用 自 動 車 | (主な設備) ・ドクターカー： 赤色灯、サイレンスピーカー、マイク、電動ストレッチャー、レントゲン、呼吸器、エコー患者モニター、酸素配管（酸素ボンベ）画像転送装置 ・ラピッドカー： 赤色灯、サイレンスピーカー、マイク 保有台数 2 台 |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床面積259.79m ² [共用室の場合] 薬品管理室と共に |

備考 1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

別紙1

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 2024年4月1日～2025年3月31日

2 紹介率 76.5%

| 紹介患者の数 (A) | 初診患者の数 (B) | 紹介率 (A／B × 100) |
|---------------|---------------|--------------------|
| 15,016人 | 19,605人 | 76.5% |

3 逆紹介率 96.8%

| 逆紹介患者の数 (C) | 初診患者の数 (B) | 逆紹介率 (C／B × 100) |
|----------------|---------------|---------------------|
| 18,995人 | 19,605人 | 96.8% |

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあっては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績
(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績

※1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数、これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数、共同利用に係る病床の病床利用率等を記入すること。

共同利用を行った医療機関の延べ機関数：2,189機関(直接関係のない医療機関の延べ件数：2,189機関)

共同の利用内訳（連携検査：2,173機関、開放型病床：16機関、施設利用：0件）

共同利用にかかる病床の利用率：18.6%、延べ日数：340日

別紙2-1-1、2-1-2、2-1-3、2-1-4参照

2 共同利用の範囲等

※2 病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象としたものを記入すること。

地域医療支援センター、図書室、開放型病床

研修室（会議室1・会議室2・会議室3・会議室4・会議室5・会議室6・会議室7）

CT・MRI・シンチグラム・超音波検査（心臓・腹部・甲状腺・頸動脈）・ホルター心電図・脳波・神経伝達速度・胃カメラ・上部内視鏡造影・大腸造影・PET-CT・骨密度検査

3 共同利用の体制

| | | |
|---------------|--|----|
| 共同利用に関する規程 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 · <input type="checkbox"/> 無 | |
| 利用医師等登録制度の担当者 | 氏 名 | |
| | 職 種 | 医師 |

※3 共同利用に関する規程がある場合には、当該規程の写しを添付すること。

別紙2-3-1参照

4 登録医療機関の名簿

| 医療機関名 | 開設者名 | 住所 | 主たる診療科 | 申請者との経営上の関係 |
|---------------------|------|----|--------|-------------|
| 別紙2-4-1、 2-4-2参照 | | | | |

※4 申請に係る病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関についてのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 5 床

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

別紙3

救急医療提供の実績

1 重症救急患者の受け入れに対応できる医療従事者の確保状況

| No. | 職種 | 氏名 | 勤務の様態 | 勤務時間 | 備考 |
|-----|-------|----|-----------|-----------|----|
| | 別紙3-1 | | 常勤 非常勤 | 専従 非専従 | |

2 重症救急患者のための病床の確保状況

| | | |
|-------------|-----------|-----|
| 優先的に使用できる病床 | 名称（集中治療室） | 22床 |
| 専用病床 | 名称（救命救急室） | 34床 |

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

| 施設名 | 床面積 | 設備概要 | 24時間使用の可否 |
|---------------------|-----------------------|--|-----------|
| 救命救急センター | 1914.25m ² | (主な設備) 処置室（小手術室含む) CT撮影室、血管造影室、一般撮影室、内視鏡室 | 可 |
| 救命救急センター (救命救急室) | 1609.52m ² | (主な設備) 病棟 | 可 |
| 集中治療室 | 1100.95m ² | (主な設備) 病棟 | 可 |
| | | | |

4 救急医療の提供の実績

| | |
|-------------------------------|------------------|
| 救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数 | 10,571人 (5,087人) |
| 上記以外の救急患者の延べ数 | 27,243人 (2,996人) |
| 合計 | 37,814人 (8,083人) |

※ () 内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数

20回

6 備考

救急病院の認定告示 令和5年3月3日（認定機関：令和5年2月1日～令和8年1月31日）

救命救急センターの指定年月日 昭和53年5月23日

※特定の診療科において、重症救急患者の受け入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。

既に、「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

1 研修の内容

2 研修の実績

| | |
|--------------------|-------|
| (1) 地域の医療従事者への実施回数 | 35回 |
| (2) (1) の合計研修者数 | 1051人 |

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるもの記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- (1) 研修プログラムの有無 ・無 別紙4-3- (1) 参照
 (2) 研修委員会の有無 ・無 別紙4-3- (2) 参照
 (3) 研修指導者

| 氏 名 | 職 種 | 診 療 科 | 役 職 等 | 臨 床 経 驚 数 | 備 考 |
|---------------|-----|-------|-------|-----------|-----|
| 別紙4-3- (3) 参照 | | | | 年 | |
| | | | | 年 | |
| | | | | 年 | |
| | | | | 年 | |
| | | | | 年 | |

※ 研修責任者については、備考欄にその旨を記入すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

| 施 設 名 | 床 面 積 | 設 備 概 要 |
|--------|---------------------|---|
| 講堂 | 321.4m ² | (主な設備) 液晶ディスプレイ、ミラーリングボード、縁台、送出映像モニター、書面カメラ、マイク、舞台用音響、システムスクリーン、机、椅子、パソコン、プロジェクター |
| 会議室1・2 | 76.2m ² | (主な設備) ホワイトボード、シャーカステン、パソコン、プロジェクター、アンプ、マイク、液晶ディスプレイ、スクリーン、机、いす |

| | | |
|-------|----------------------|--|
| 会議室 3 | 38. 0m ² | (主な設備) 液晶ディスプレイ、ホワイトボード、机、椅子 |
| 会議室 4 | 38. 0m ² | (主な設備) 液晶ディスプレイ、ホワイトボード、机、椅子 |
| 会議室 5 | 52. 83m ² | (主な設備) ホワイトボード、机、椅子、アンプ |
| 会議室 6 | 38. 76m ² | (主な設備) ホワイトボード、机、椅子、シャーカステン、スクリーン |
| 会議室 7 | 77. 79m ² | (主な設備) 机、椅子、マイク、パソコン、スピーカー、ホワイトボード、スクリーン。プロジェクター |
| 図書室 | 76. 93m ² | (主な設備) 書架、閲覧テーブル、パソコン（医学文献検索用）、机、椅子 |

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

1 管理責任者等

| | 氏 名 | 職 種 | 役 職 等 |
|--------------------------|-----|-----|-----------------------|
| 管 理 責 任 者 の 氏名、職種、役職等 | | 事務 | 事務部長 |
| 管 理 担 当 者 の 氏名、職種、役職等 | | 看護師 | 副院長兼看護部長 |
| | | 薬剤師 | 薬剤部長 |
| | | 事務 | 情報管理センター長 |
| | | 事務 | 庶務課長 |
| | | 事務 | 救命センター管理課長 |
| | | 事務 | 第二医事課長 |
| | | 事務 | 地域医療支援センター 地域連携部門長 |

2 諸記録の保管場所及び分類方法

| | | 保 管 場 所 | 分 類 方 法 |
|------------------|--|--|---|
| 診療に関する諸記録 | 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約 | 庶務課 病棟、外来、薬剤部、情報管理センター、病歴管理課、地域医療支援センター | 日誌は日付順 診療記録は電子カルテ X線写真は1年単位でID順 紹介状は1年単位で日付順 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 共同利用の実績 | 地域医療支援センター | |
| | 救急医療の提供の実績 | 救命救急センター | |
| | 地域の医療従事者の資質の向上を図るために研修の実績 | 地域医療支援センター | |

| | | | |
|--|---|------------|--|
| | 閲覧の実績 | 第二医事課 | |
| | 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿 | 地域医療支援センター | |

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理办法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法
及び閲覧の実績

| | | | | |
|---------------|--|------|-------------|------|
| 閲 覧 責 任 者 | 氏 名 | 職 種 | 役 職 等 | |
| | | 事務 | 事務部長 | |
| 閲 覧 担 当 者 | 氏 名 | 職 種 | 役 職 等 | |
| | | 事務 | 病歴管理課長補佐 | |
| | | 事務 | 庶務課長 | |
| 閲 覧 場 所 | 診療録に関する諸記録は、病歴管理課・病棟 ※エキサイネット（インターネット）を用いて院外からの閲覧可能 | | | |
| 総 閲 覧 件 数 | 医 師 | 歯科医師 | 地方公共 團 体 | その 他 |
| | 19,447 | 0 | 0 | 0 |
| 閲 覧 手 続 の 概 要 | <p><閲覧申請の方法></p> <p>当院の運営するエキサイネット利用規約に規定するように、利用申請書により登録手続きによって胃、訪問による接続作業を実施します。当院登録胃であることが条件となります。</p> <p><閲覧に関するセキュリティ状況></p> <p>登録医療機関から閲覧する際には、SSL-VPN装置がエキサイネット情報をSSLで暗号化し、不正侵入や駆ウィルス感染を未然に防止します。</p> <p><費用負担></p> <p>費用は無料です。</p> | | | |

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

医療法施行規則第 9 条の 19 第 1 項に規定する委員会の開催の実績

1 委員会の開催回数

4回

2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

別紙7-2-1、7-2-2①、7-2-2②、7-2-3参照

患者相談の実績

| | | | | |
|------------|--|----|-----|--|
| 患者相談を行った場所 | 地域医療支援センター、病棟（カンファレンス室・面談室・病室）・外来診察室・化学療法センター面談室など | | | |
| 患者相談担当者 | 氏名 | 職種 | 役職等 | |
| | 別紙8-1参照 | | | |

| | |
|--------|---------|
| 患者相談件数 | 22,245件 |
|--------|---------|

患者相談の概要

| | | |
|----------------------|--------|---|
| 転院・退院支援 | 12,421 | 件 |
| 入院支援 | 5,576 | 件 |
| 受診・受療 | 430 | 件 |
| 経済的問題 | 1,639 | 件 |
| 家族への支援 | 1,488 | 件 |
| 社会復帰支援 | 45 | 件 |
| がんの治療・療養生活 | 304 | 件 |
| セカンドオピニオン | 12 | 件 |
| がん治療における治療費等、社会保障制度等 | 28 | 件 |
| がんの告知立ち会い、精神的支援等 | 183 | 件 |
| その他 | 119 | 件 |
| 合計 | 22,245 | 件 |

※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

居宅等における医療の提供の推進に関する支援の状況

居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

訪問看護師・介護支援専門員・障害者相談支援専門員等との地域多職種交流会を下記のとおり3回開催した

テーマ：第3回がん患者のシームレスな医療支援を考える多職種勉強会 地域多職種交流会
その人らしく生きるために～ACPをふまえて～

内 容：ACPについての講義の後、多職種でのグループワークを行った

開催日時：①令和6年11月6日（水）15：00～16：30

②令和6年11月27日（水）15：00～16：30

③令和6年12月4日（水）15：00～16：30

参加者合計：142名（院内84名、院外58名）

医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

① ケアマネとのカンファレンス：346件

② 訪問看護事業所・訪問診療医療機関とのカンファレンス：237件

③ 入院時の状態及び退院後の生活を見据えて医療や介護に必要なサマリーの提供：4,272件

その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

当院では入院患者は自宅等へ退院する際に医療的なケアが途切れないよう退院前カンファレンスができる限り開催し、地域の医療機関・介護保険事業所・福祉事業所等と連携を図っています。

退院前カンファレンス：583件

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

別紙10

その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

| 専用の室の名称 | 地域医療支援センター | | |
|---------|------------|-------------|-----------------|
| 担当者 | 氏名 | 職種 | 役職等 |
| | | 医師 | 副院長兼地域医療支援センター長 |
| | | 臨床検査技師 | 副センター長 |
| | | 看護師 | 副看護部長兼副センター長 |
| | | 事務 | 地域連携部門長 |
| | | 看護師 | 入退院支援室看護師長 |
| | | 医療ソーシャルワーカー | 患者相談部門長補佐 |

2 病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|-----------|-----------------------|
| 評価を行った機関名 | 公益社団法人 日本医療機能評価機構 |
| 評価を受けた時期 | 2021年2月19日～2026年2月18日 |

※ 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

3 退院調整部門の取組

| |
|----------------|
| 退院調整部門の実績 |
| 退院調整患者数：5,592人 |
| ケアマネとの調整：346人 |
| 地域との共同指導：237人 |

4 地域連携を促進するための取組みの実績

| |
|------------------------|
| 策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 |
| |

| | |
|---|--------|
| <地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み> | |
| 大腿骨頸部骨折地域連携クリニカルパス | 91件／年 |
| 脳卒中地域連携クリニカルパス | 171件／年 |
| 大腸がん地域連携クリニカルパス | 21件／年 |
| 胃がん地域連携クリニカルパス | 10件／年 |
| 胃がん（内視鏡）地域連携クリニカルパス | 4件／年 |
| 乳がん地域連携パス | 4件／年 |
| 前立腺がん地域連携クリニカルパス | 9件／年 |
| 上記件数の適用をしている。大腿骨頸部骨折地域連携クリニカルパス・脳卒中地域連携クリニカルパスに関しては、拡大合同会議に幹事病院として、企画段階から参加。地域連携クリニカルパスのより良い運用のための検討を行っている。がん地域連携クリニカルパスに関しては、適用患者が出た際に新規医療機関がかかりつけ医の場合に訪問し、趣旨と活用方法を説明し、連携を図っている。 | |

5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法

- ① 病診連携News
- ② 医療連携ガイドブック
- ③ 広報誌（Compass／エキサイだより）
- ④ エキサイ健康教室
- ⑤ 地域市民講座

上記を活用し、情報発信を行っている

内容等の概要

① 病診連携News

地域医療支援センターより連携医療機関への情報発信のツールとして発行

② 医療連携ガイドブック

当院診療科紹介と担当する医師の顔写真を掲載したガイドブックを1回／年作成し、連携医療機関へ発送。患者紹介の際に活用いただいている。

③ 広報誌（Compass／エキサイだより）

当院の診療科・医師・病院機能などの情報を掲載し、周知を図っている。

④ エキサイ健康教室

下記テーマで収集型研修会を開催した

- ・令和6年5月20日（月）14時～15時「学ぼう！介護保険」

（講師）医療相談室 MSW 内山真子氏 （参加者）208人

- ・令和6年6月25日（火）14時～15時「その痛み、リウマチかも？ここまで進んだリウマチの診断と治療」（講師）膠原病リウマチ内科 田口雄一郎氏 （参加者）121人

- ・令和6年8月7日（水）14時～15時「最新そけいヘルニア治療」

（講師）外科 水谷文俊 氏 （参加者）49人

- ・令和6年10月8日（火）14時～15時「心不全パンデミック」

（講師）循環器内科 谷村大輔 氏 （参加者）154人

- ・令和6年12月16日（月）14時～15時「みんなで知ろう認知症」

（講師）認知症看護認定看護師 千島紀子 氏、脳神経内科 馬渕直紀 氏（参加者）300人

- ・令和7年2月25日（火）14時～15時「あなたの血管大丈夫？動脈硬化検査を学ぼう」

（講師）検査部 竹内裕紀子 氏 （参加者）299人

⑤ 地域市民講座

当院の近隣住民向けに勉強会を開催し、幅広く情報発信を行った

- ・令和7年1月28日（火）14時～15時「人生会議してみませんか？」

（講師）緩和ケア内科 小島 美保 氏 （参加者）139人

- ・令和7年3月10日（月）14時～15時「内視鏡でがんを治療する」

（講師）消化器内科 大橋 曜 氏（参加者）172名

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。